

主要産地における令和元年産水稲の生育状況等について 第9報 (7月16日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和元年7月16日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体等公表資料の抜粋)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(生育)	<p>(全道) 生育は、やや早く推移している。 (北海道農政部 7月1日現在)</p> <p>(空知) 生育は進んでいる。(空知総合振興局 7月1日現在) (石狩) 生育は順調である。幼穂形成期は平年よりやや早まる見込みである。(石狩振興局 7月1日現在) (後志) 生育遅延日数は1日早い。(後志総合振興局 7月1日現在) (胆振) 生育はやや早い。(胆振総合振興局 7月1日現在) (日高) 生育は、平年並みである。(日高振興局 7月1日現在) (渡島) 茎数は平年に比べ多いが、6月4半期の低温により生育はやや遅慢。(渡島総合振興局 7月1日現在) (樺山) 生育は平年より早い。(樺山振興局 7月1日現在) (上川) 生育の遅延は、平年並に推移している。(上川総合振興局 7月1日現在) (留萌) 生育は早く進んでいる。(留萌振興局 7月1日現在) (オホーツク) 生育は平年より進んでいる。(オホーツク総合振興局 7月1日現在)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 北・東日本太平洋側では、6月28日頃から、前線や湿った空気の影響を受けやすく、日照時間は平年の50%を下回っている所がある。この状態は、今後2週間程度は続く見込み。また、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った空気の影響を受けやすく、今後2週間程度は気温の低い状態が続き、かなり低くなる所がある見込み。(気象庁 7月8日15時10分)(気象庁)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>
青森	(生育)	<p>(7月10日現在の生育状況) ・(黒石)「つがるロマン」は草丈が52.6cmで平年より6.6cm短く、株当たりの茎数は30.0本で平年よりも1.3本少なく、葉数は10.4葉で平年並だった。穂首分化期の到達日は7月5日で平年より1日遅かった。 「青天の霹靂」は草丈が59.8cmで平年より4.5cm短く、株当たりの茎数は26.1本で平年より3.8本少ないが、葉数は5葉で平年より0.2葉多かった。穂首分化期の到達日は7月2日で平年並だった。幼穂形成期の到達日は平年より1日早かった。 ・(十和田)「まっしぐら」の生育状況は草丈が60.8cm、株当たりの茎数は30.0本だった。 (地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 7月10日付)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 東北地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で平年並少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量は、平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>
岩手	(生育)	<p>(7月5日現在) ・農業研究センター(北上) 全品種とも、草丈、葉数、葉色(SPAD値)は平年を上回っている。茎数は平年より少ない。 また、「あきたこまち」は6月30日(平年より2日早い)に、「鏡河のしずく」は7月1日(平年より1日早い)に、「ひとめぼれ」は7月3日(平年より1日早い)に穂首分化期に達した。 ・東北農業研究所(軽米) 「いわてっこ」では、草丈、葉数、葉数は平年を下回っている。葉色(SPAD値)は概ね平年並みとなっている。 また、「いわてっこ」は7月1日(平年並)に穂首分化期に達した。 (岩手県農業研究センター 7月8日付)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>・季節予報(同上) ・いもち病の発生がやや多の予報(岩手県 6月27日付)</p>
宮城	(生育)	<p>(7月10日現在) 水稲の生育は、草丈が57.8cm(平年比95%)、1㎡当たり茎数が560本(平年比99%)、葉数が10.8枚(平年並-0.1)、葉色はGAI値が40.7(平年並+1.8)と概ね平年並みとなっている。幼穂長は1.8mm(平年並-1.0mm)となっており、北部平原地帯での幼穂形成始期は7月8～10日頃であった。今後の気温が平年並みで推移した場合、北部平原地帯における「ひとめぼれ」の出穂期は8月4日頃になる見込み。 (宮城県 7月11日付)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>・季節予報(同上)</p>
秋田	(生育)	<p>(北秋田) 7月5日現在の生育は、草丈が52.0cm(平年比100%)、茎数が580本/㎡(同比95%)、葉数が10.4葉(同差+0.3葉)、葉色値が45.3(同比105%)となっており、生育は平年並みとなっている。(7月12日付) (秋田) 地域や田植え日によって、生育に差が見られている。(7月12日付) (平鹿) 7月5日現在の水稲定点調査(あきたこまち11か所)では、草丈48.7cm(平年比98%)、茎数461本/㎡(同比93%)、葉数10.0葉(同差+0.2葉)となっている。(7月12日付) (由利) 多くの圃場で幼穂形成期に入っている。(7月12日付) (山本) 7月5日現在の水稲定点調査(管内9地点、品種：「あきたこまち」)における生育状況は、草丈50.1cm(平年比100%)、茎数574本/㎡(同比113%)、葉数10.1(同差+0.1)、葉色45.2(同比104%)となっている。(7月12日付) (鹿角) 7月5日の水稲定点生育調査では、草丈が45.6cmで短く(平年比92%)、㎡当たり茎数は665本で多く(平年比107%)、葉数は9.8葉で1日程度の遅れ(平年並-0.2葉)、(7月12日付) (雄勝) 生育は平年より2～3日早い見込み。(7月12日付) (仙北) 6月25日現在の管内のあきたこまちの生育状況は、草丈が36.1cm(平年比96%)、茎数は552本/㎡(平年比138%)、葉数は9.0葉(平年並+0.7葉)、葉緑素計値は43.7(平年並-0.2ポイント)。(6月28日付) (秋田県農林政策課)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>・季節予報(同上)</p>
山形	(生育)	<p>・7月10日現在、平野部「はえぬき」の生育は平年並みとなっている。農業総合研究センターの幼穂調査によると出穂期は、山形市で平年並み、鶴岡市でやや早いと予想。(山形おいしさ際立つ!米づくりプロジェクト本部 7月10日) (鶴岡田川) (7月10日時点の出穂予定日) ・(矢野) はえぬき 8月1日、(下清水) つや姫 8月7日、(下小中) 雪若丸 8月1日。 いずれの品種も平年より2～3日早くなる見込み。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月11日付) (最上) ・現在の生育から、出穂時期は平年並から2日程度の遅れと予想。 (最上総合支庁農業技術普及課 7月10日付)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>・季節予報(同上) ・斑点米カメムシ類の県下全域での発生量はやや多い予報。(山形県病害虫防除所 7月11日付)</p>
福島	(生育)	<p>(7月2日現在、農業総合センターの生育調査) ・本部(郡山)では、平年より草丈は短く、茎数は多く、主稈葉数はやや少なく、葉色は濃くなっている。 ・会津地域研究所(会津坂下)では、草丈は平年並、茎数は平年より少なく、主稈葉数は少なく、葉色は濃くなっている。 (生育) ・浜地域研究所(相馬)では、平年より草丈は短く、茎数は多く、主稈葉数は平年並、葉色は品種間差がある状況。 ・コシヒカリの主稈葉からみた生育は、本部と会津地域研究所では平年より最大3日の遅れ、浜地域研究所では1日早く進んでいる。今後の天候によるが、幼穂形成始期は各地域とも平年並と見込まれている。 (福島県 7月5日付)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>・季節予報(同上)</p>

	生育状況等	
茨城	<p>(水戸市 5月1日移植)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅達) あきたこまちは4日程度遅い、コシヒカリ3日程度遅い、ふくまるは4日程度遅い、</li> <li>・(生育ステージ) あきたこまちは幼穂形成期、コシヒカリは幼穂形成期、ふくまるは幼穂形成期。</li> </ul> <p>(水戸市 5月10日移植)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅達) コシヒカリは4日程度遅い、</li> <li>・(生育ステージ) コシヒカリは幼穂形成期。 (茨城県農業総合センター 7月13日付)</li> </ul> <p>(龍ヶ崎市 4月26日移植)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅達) あきたこまちは4日遅い、コシヒカリは1日遅い、ふくまるは3日遅い平年並、</li> <li>・(生育ステージ) あきたこまちは幼穂形成期、コシヒカリは節間伸長開始期、ふくまるは幼穂形成期。</li> </ul> <p>(龍ヶ崎市 5月7日移植)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅達) あきたこまちは6日遅い、コシヒカリは1日遅い、</li> <li>・(生育ステージ) あきたこまちは幼穂形成期、コシヒカリは節間伸長開始期。</li> <li>・(茨城県農業総合センター 7月1日付)</li> </ul>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>・いもち病(葉いもち)の発生量は平年並～やや多いの予報。 (茨城県病害虫防除所 6月27日付)</p>
栃木	<p>早稲栽培(品種:コシヒカリ)</p> <p>(7月5日調査結果) (全体の生育) (11か所平均:平年値下1割、及び生育不良地点除く)</p> <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は平年並(平年比99%)、葉数はやや多く(102%)、葉齢は平年より+0.1多い、葉色は平年並。地域によりバラツキがある。幼穂長は0.2cmで、幼穂形成が始まっている。</li> <li>生育診断値(葉色×葉数)は平年比104%でやや上回っている。</li> </ul> <p>(栃木県 7月10日付)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>・季節予報(同上)</p>
千葉	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月下旬から7月上旬にかけて低温・寡照が続いたことで、幼穂形成期後の生育が緩慢となり、出穂が3～5日遅れる見込み。4月20日播きの「ふさおとめ」の出穂期は7月13日頃から(平年並み)、「ふさかぐね」は7月14日頃から(平年並み)と見込まれる。</li> </ul> <p>(千葉県 7月11日付)</p>	<p>【日照不足と低温に関する全般気象情報】 (同上)</p> <p>・季節予報(同上)</p> <p>・いもち病(穂いもち)の発生量はやや多の予報。 (千葉県農林総合研究センター 7月12日付)</p>
新潟	<p>(7月10日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリは、指標値(生育のめやす)に比べ、草丈が「並」、葉数が「やや多い」、葉色の進みが「並」、葉色が「やや濃い」状況。</li> <li>・長岡市に設置した調査ほ場の早生品種つきあかり、ゆきん子舞、こしいぶきの葉数は、指標値に比べ、それぞれ「少ない」、「多い」、「やや多い」状況。</li> </ul> <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期(県平均)は、平年に比べ、コシヒカリが8月4日と1日早く、こしいぶきが7月2日と2日早い見込み。また、つきあかり及びゆきん子舞の出穂期は、こしいぶきよりも、それぞれ3日及び2日程度早い見込み。ただし、今後、気温が平年並か低いと予想されるため、出穂期が見込みよりも遅れる可能性がある。 (新潟県 7月11日付)</li> <li>・(佐渡)コシヒカリの出穂期は「平年並み」と予想され、5月10日播きで8月8日頃の見込み。 (佐渡農業普及指導センター 7月10日付)</li> <li>・(岩船)草丈は指標値並～やや短くなっている。コシヒカリの最高分け時期は6月末頃であったが、中山間地域では7月上旬頃に後ずれした。葉数はほ場によりバラツキがあるものの、全般的には指標値並～やや多くなっている。全般的に穂色が緩慢で、葉色が指標値よりやや濃い状態が続いているが、葉数の多いほ場では、今後葉色濃緑色が想定される。早生品種の幼穂形成期が平年比1～2日程度早くなっている。 (村上農業普及指導センター 7月10日付)</li> <li>・(上越)「コシヒカリ」の生育は、葉色は濃く、また、葉数淘汰がゆるやかで葉数はやや多くなっている。葉色が濃く、低位節間の伸長による倒伏の発生が懸念される。葉数がやや多いことから、穂数が多くなり、もみ数過剰となる恐れがある。「こしいぶき」の生育は、草丈は並、葉数は多く、葉色は濃くなっている。 (上越農業普及指導センター 7月10日付)</li> <li>・(南魚沼) (7月10日調査) (JA、普及センター生育調査地点27地点の平均、&lt; &gt;内は指標値との比較) 草丈:63cm&lt;並&gt; 葉色:SPAD値39.7&lt;濃い&gt; 葉数:472本/m&lt;並&gt; 葉数:10.7葉&lt;並&gt; (南魚沼農業普及指導センター 7月10日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 北陸地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>・6月18日に山形県沖で発生した地震により、農地14カ所(村上市、関川村、阿賀町)で田崩落、田面に亀裂。 (新潟県 7月5日13時現在)</p>
富山	<p>(本田での生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・てんたかく 5月3日に移植された「てんたかく」の出穂期は7月20日頃になると見込まれる。</li> </ul> <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリ 平年に比べ、草丈、葉齢および葉色は並み、葉数は多くなっている。生育量(草丈×葉数×葉色÷1000)は159と、平年(138)より大きくなっている。幼穂形成期は、平年より1日早い7月11日頃と見込まれる。今後、気温が近年並みに推移すると、出穂期は、平年より1日早い8月1日頃と見込まれる。</li> <li>・てんこもり 幼穂形成期は、平年より1日早い7月11日頃と見込まれる。今後、気温が近年並みに推移すると、出穂期は、平年より1日早い8月1日頃と見込まれる。</li> <li>・富山富 幼穂形成期は、前年より1日早い7月12日頃と見込まれる。今後、気温が近年並みに推移すると、出穂期は、前年より1日早い8月1日頃と見込まれる。</li> </ul> <p>(富山県 農業技術課広域普及指導センター 7月9日付)</p>	<p>・季節予報(同上)</p>
石川	<p>(本田の生育 7月8日調査)</p> <p>【品種別地域別出穂期予想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめみづは 加賀:7月15日(近年より2日程度早い) 能登:7月19日頃(近年より3日程度早い)</li> <li>・能登ひかり 能登:7月23日頃(近年より1日程度早い)</li> <li>・コシヒカリ 加賀:7月26日～31日(平年より2日程度早い) 能登:7月30日～8月1日(平年より3日程度早い)</li> <li>・ひやくまん穀 加賀:8月3日～7日(近年より2日程度遅い) 能登:8月8日頃(近年より2日程度早い)</li> </ul> <p>(石川県農林総合研究センター 7月9日付)</p>	<p>・季節予報(同上)</p>
福井	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植のコシヒカリは早いところで7月10日前後に幼穂形成期を迎えている。</li> <li>・移植のハナエチゼンは出穂期を迎えようとしている。</li> </ul> <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月11日付)</p>	<p>・季節予報(同上)</p>

	生育状況等	
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作況調査（5月10日移植）では、「みずかがみ」の生育は6月上旬までは平年並であったが、6月中旬以降は茎数が平年より少なくなっている。「コシヒカリ」の生育は平年並である。</li> <li>・幼穂形成期は、「みずかがみ」は6月29日と平年並、「コシヒカリ」は7月1日と平年より2日早く、「みずかがみ」では、7月20日頃に収穫期を迎える見込み。</li> <li>・県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育の差は見られるものの、概ね平年並の生育となっている。（滋賀県 7月9日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は平年並か低い見込み。 降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。 日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p>
兵庫	<p>（6月25日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県北 葉齢の進展は平年よりやや早い。草丈はやや短く、茎数は少ない。 遅植えでは葉齢の進展はやや遅く、草丈、茎数は平年並である。</li> <li>・県南 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並からやや低い。茎数は多い。 （兵庫県 7月4日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報（同上）</li> </ul>
岡山		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は平年並か低い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁広島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 （気象庁広島地方気象台）</p>
広島		<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報（同上）</li> </ul>
愛媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は平年並か低い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 （気象庁高松地方気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いもち病の発生量は平年並～やや多い予報（愛媛県 6月28日付）</li> <li>・石手川の農業用水は6月29日から、22.2%の取水制限。 （国土交通省 7月8日現在）</li> </ul>
高知	<p>（7月4日時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期稲 出穂期は、4月5日植え「南国そだち」では平年並み、4月5日植えの「コシヒカリ」では平年よりやや早く、4月15日植え「コシヒカリ」では平年並みの時期。4月5日植え「よさ恋美人」は同時期移植の「コシヒカリ」より6日早く出穂期を迎えた。</li> <li>・普通稲 草丈は平年並み、茎数は平年値に比べやや少ないが、葉齢は平年並みで生育している。 （高知県農業技術センター 7月12日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報（同上）</li> <li>・水稲（普通稲）のいもち病（葉いもち）の発生量は、やや多（中野郡）の予報（高知県病害虫防除所 7月4日）</li> <li>・早期稲の出穂期のすくい取り調査では、1ほ場あたりの穂重は平年より多く、特に県中央部では平年の約4倍、東部で約2倍と、平年を大きく上回っている。 （高知県病害虫防除所 7月16日）</li> </ul>
福岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期水稲（夢つくし、コシヒカリ） 生育は順調で有効茎が確保され、中干し時期となっている。4月下旬植えの出穂期は平年より2～3日早い7月中旬の見込み。</li> <li>・普通水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど） 5月中旬～6月上旬植えは、田植え後、高温で経過したため活着が良く生育は順調。 降雨が少ないため、一部地域では、田植えが平年に比べて3日～1週間程度遅れている。 収穫後でも田植えが始まり、平地地の「夢つくし」は6月上旬中、「元気つくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込み。 （福岡県農林総合試験場 6月14日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か低い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 （気象庁福岡管区気象台）</p>

生育状況等	
熊 本	<p>・季節予報（同上）</p> <p>・早稲え水稲の稈いもちの発生量はやや多の予報。 （熊本県病害虫防除所 7月2日付）</p>
宮 崎	<p>（作物の生育状況）（6月中旬）</p> <p>・ 早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後。 （宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長 6月25日付）</p> <p>（生育）</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月13日～8月12日】 九州南部地方の向こう1か月の気温は平年並か低い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p>
鹿 児 島	<p>・季節予報（同上）</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：前期からの更新箇所は赤字で示した。  
注3：令和元年7月16日13時時点での取り纏め。

参考・引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道 7月4日)、農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月4日)、  
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月4日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月4日)、  
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月4日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月4日)、  
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月4日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月4日)、  
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月4日)、農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月4日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月4日)、  
作況調査報告(7月10日現在の生育状況)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月10日)、  
令和元年度水稲生育定期調査結果No.4(7月5日現在)(岩手県農業研究センター 7月8日)、  
令和元年度水稲の生育状況について(7月10日現在)(宮城県農政部みやぎ米推進課 7月11日)、  
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月12日)、  
おいしい米づくり情報第10号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月11日)、米づくり技術情報No.9(やまがたおいしい米際立つ!米づくりプロジェクト本部 7月10日)、  
稲作だより第8号(最上総合支庁農業技術普及課 7月10日)、  
つや姫雪若丸だより第2号(最上総合支庁農業技術普及課 7月5日)、  
おきたま米づくり情報No.6(置賜農業技術普及課 7月4日)、  
主要な農作物の生育情報令和元年度第4号(福島県農林水産部 7月5日現在)、  
農研速報龍ヶ崎(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月5日)、  
農研速報水戸(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月13日)、  
令和元(2019)年度水稲生育診断予測事業速報No.4(栃木県 7月10日)、  
水稲の生育状況と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月11日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第5号)(新潟県農林水産部 7月11日)、  
稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月10日)、コンヒカリ・こいしぶき生育速報(上越農業普及指導センター 7月10日)、  
岩船米生育速報(7月10日現在)(村上農業普及指導センター)、  
稲作情報No.7(南魚沼農業改良普及センター 7月11日)、  
TACS情報第7号(富山県農業技術課 7月9日)、  
令和元年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-7号)(石川県農林総合研究センター 7月8日調査)、  
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月11日)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(平成31年)(長野県農業試験場 7月1日現在)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(平成31年)(長野県農業試験場 7月12日現在)、  
令和元年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月9日)、  
兵庫県農業気象技術情報第2号(7月情報)(兵庫県 7月4日)、  
水稲の生育概況(令和元年度)(高知県農業技術センター 7月12日)、  
福岡県の主な農作物の生産状況(福岡県農林業総合試験場 6月14日現在)、  
平成31年度病害虫発生予報第3号について(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長 6月25日)、  
病害虫発生予報情報(岩手県 6月27日)、  
令和元年度農作物有害動植物発生予報情報注意報第2号(山形県病害虫防除所 7月11日)、  
病害虫発生予報7号(茨城県病害虫防除所・茨城県植物防疫協会 6月27日)、  
令和元年度病害虫発生予報第4号(千葉県農林総合研究所 7月10日)、  
病害虫発生予報(7月)(愛媛県 6月28日)、  
令和元年度病害虫発生予報注意報第1号(高知県病害虫防除所 7月16日)、  
令和元年度病害虫発生予報情報第4号(7月予報)(熊本県病害虫防除所 7月2日)、  
北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日気象庁)、  
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日広島地方気象台)、  
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(7月11日鹿児島地方気象台)、  
北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日気象庁)、  
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日大阪管区気象台)、中国地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日広島地方気象台)、  
四国地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(6月27日鹿児島地方気象台)、  
北・東日本太平洋側の日照不足と低温に関する全般気象情報第1号(気象庁 7月8日)、  
令和元年度渇水状況について(7月8日現在)(国土交通省)、  
新潟県報道資料 被害速報第18号(新潟県災害対策本部 7月5日)